いじめ克服ソング 響いた

「あなたがいい」娘にかけた言葉 子どもたちへ

娘がいじめを受けた経験のある女性が、生きる素晴らしさを伝えようと学校で講演を続けている。自信を失った娘に伝えた「あなたがいい」という言葉から、メッセージソングも誕生。子どもたちの感想文は1万通を超えた。(見市紀世子)

横浜市のエッセイスト、ヒロコ・ムトーさん(65)が学校で講演を始めたのは2007年。前年に母を亡くしたのがきっかけだ。「平凡なおばあちゃん」だった母は88歳のとき、小さな紙人形を作り始めた。右目の視力を失い、左目も足も不自由。四季や行事を和紙で表し、豆人形作家として脚光を浴びた。93歳で亡くなったが、追悼展の会場になった学校の先生から「希望を持って生きたおばあちゃんの話を、子どもたちに届けて下さい」と背中を押された。

学校で話すことには抵抗があった。娘がかつて、いじめにあったからだ。

次女のアサコさんは中学2年の春、ささいなことから同じグループの仲間たちに無視され始めた。毎日、勇気を出して「おはよう」「さよなら」と声をかけたが、無視は続いた。1年後、明るい性格だったアサコさんは、笑わなくなっていた。

「あなたのままでいい。あなたが一番いい」。自信を失ったアサコさんを、ヒロコさんは励まし続けた。自分を好きになることで人を好きになり、信じられるようになって欲しい――。それでも元気を取り戻すには、途方もない時間がかかった。

講演に行くことに迷いはあったが「昔の娘のような思いをしている子どもに、生きる素晴らしさを伝えられるなら」と、友人3人と学校を回ることにした。いじめは子どもから自信を奪い、自分に価値がないと感じさせてしまう。「そうじゃないよ」というメッセージを送ろうと、08年には「あなたがいい」を作詞。知人の作曲家が曲をつけた。講演のたびにこの歌を流し、アサコさんと亡くなった母の人生を語った。

訪れた学校は、3年間で約40校。子どもたちから届く感想文は1万通を超えた。「私もいじめられたことがある」「アサコさんの気持ちが分かる」と書く子が多いのに驚いた。「いじめられている子に『友達にならない?』と言ってあげたい」「気づかないうちに傷つけていたかも。言葉遣いを変えていきたい」。そんな感想も届いた。

「あなたがいい」は学校内の合唱コンクールの課題曲になったり、保護者のコーラスサークルで歌われたりしている。

子どもたちからの感想文を手にするヒロコ・ムトーさん=横浜市

「あなたがいい」

あなたは今　信じる友がいなくて
一人悲しみの　穴倉の中
人に会うのが怖くて　外に出るのが辛くて
ただ　みんなから　背を向けている
でもさ　人生はいろいろあるのさ
誤解　裏切り　失敗だらけ　誰でもあるよ
でもさ　人は皆それを乗り越えて生きて行くのさ
そして　前よりずっとずっと強くなれる

あなたに贈りたい言葉があります
誰よりも　誰よりも　あなたがいい
あなたに贈りたい言葉があります
世界中の誰よりも　あなたがいい

(JASRAC許諾)

The Asahi Shimbun

講演の問い合わせはホームページ(http://kokorono-takkyubin.com/index.html)へ

いじめ 無関係は1割

国立教育政策研究所の生徒指導研究センターは、ある地方都市で、04年度に小学4年生だった子どもが中学3年になるまでの6年間、いじめについて追跡調査した。年2回、計12回の調査で「仲間はずれ、無視、陰口」を一度も経験したことがなかったのは596人のうち58人(9.7%)。一度も加害者の立場にならなかったのは594人のうち66人(11.1%)。

増減の傾向を見ると、いじめを受けた子どもの割合は小4から中3に向かって緩やかに減少。加害を経験した割合は小5から中1が高くなり、その後に減った。中2と中3は男女ともいじめ被害が減るが、他の学年では全体の4割以上がいじめを受けていた。また、いじめの加害者と被害者は、毎回大きく入れ替わっていた。

文部科学省の調査によると、全国の小中学校と高校、特別支援学校の「いじめ」は09年度に7万2778件。あくまで学校側が把握した件数だ。